



7月29日 野々市じょんからまつりオープニングセレモニーでご挨拶させていただきました。

ごあいさつ

令和5年8月4日

8月に入りました。

連日うだるような暑さが続く7月29日、30日、4年ぶりに「野々市じょんからまつり」が開催されました。コロナ前と同じく、両日合わせて3万人を超える方にお越しいただきました。実行委員会をはじめ、ご尽力いただきました関係の皆さんに心から感謝を申し上げます。

開催されなかった間も、まつりの魂を繋げようと、毎年この時期に独自に作り続けた商工会青年部の皆さんが作る「焼きそば」の香ばしいにおいや、色とりどりの浴衣姿のお子さん、家族やグループで楽しそうに会場に集われる皆さんを拝見するにつけ「野々市じょんからまつり」がよみがえってきました。4年間のブランクを感じさせない賑わいと熱気に、これぞ「野々市の夏」と感じ、ご来場いただいた皆さんの弾ける笑顔から夏を乗り切る力をいただきました。

8月5日から6日まで、「第32回野々市市平和の旅」として、野々市・布水の両中学校から14名の生徒を広島市へと派遣し、平和記念式典への出席や原爆ドームの見学などを行います。

私もこれまで、8月6日の平和式典に参加させていただいたことがあり、中学生の皆さんにも、この特別な日における広島市の空気感をぜひ経験していただきたいと思えます。平和記念資料館の見学も予定しており、戦争の悲惨さ、恐ろしさを感じ、あらためて、平和であることの尊さを考えるきっかけになればと思えます。

久しぶりにお盆に帰省される方も多いと思えます。昨年10月にオープンした市営墓地公園「メモリアルパークののいち」は、この夏初めてのお盆を迎えます。さまざまな形態で準備させていただいた区画の申し込みも順調に進み、建てられたお墓も目立つようになってきました。

コロナ禍の中にあっても本市の街並みは大きく変わりました。土地区画整理事業によって、新しい道路や商業施設が造られ、4年ぶりに本市に帰省された方は驚かれることと思えます。まちの風景は時代の移ろいとともに変わっていくものですが、そこに住む人の気持ちや、地域の行事はまだまだ「ふるさと」を感じさせてくれることと思えます。

いつまでも、あたたかい「ふるさと野々市」を創り上げていきたいと思っております。